

科目名	サウンドスケープ論	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	アルバレス・ホセ・サンティアゴ	単位	2	年次	2

＝授業科目の目標＝

サウンドスケープとは、「音の風景」であり、私たちの周囲の「音環境」を意味します。カナダの音楽教育家、作曲家である Raymond Murray Schafer が提唱し、そのユニークな理論と実践によって、ひとつの流行現象にまでなった考え方は、サウンドスケープへの関心は、今日も続いています。実践や、書物も、目にとまります。

本講義、では、『世界の調律』の日本語版への序に、示されたマリー・シェーファーの考えを踏まえ、その原点の一つである『教室の犀』に示された音楽や音環境に対するみかたも学びます。

＝履修の条件と学習の方法＝

真摯な態度で、音楽を学び享受できる学生諸君の受講を求めます。ノートは、自分なりの方法で、しっかりとまとめておくこと。大学生が取るべき受講態度を、必ず実践すること。

＝授業内容＝

- 1回 ガイダンス：講義の目標や内容の確認
- 2回 サウンドスケープとは？ (1)
- 3回 サウンドスケープとは？ (2)
- 4回 Murray Schafer のサウンドスケープ理論 (1) — 『世界の調律』を中心に —
- 5回 Murray Schafer のサウンドスケープ理論 (2) — 『世界の調律』を中心に —
- 6回 Murray Schafer のサウンドスケープ理論 (3) — 『世界の調律』を中心に —
- 7回 Murray Schafer のサウンドスケープ理論 (4) — 『世界の調律』を中心に —
- 8回 Murray Schafer のサウンドスケープ理論 (5) — 『世界の調律』を中心に —
- 9回 Murray Schafer のサウンドスケープ理論 (6) — 『世界の調律』を中心に —
- 10回 Murray Schafer の発想の原点 (1) — 『教室の犀』を中心に —
- 11回 Murray Schafer の発想の原点 (2) — 『教室の犀』を中心に —
- 12回 Murray Schafer の発想の原点 (3) — 『教室の犀』を中心に —
- 13回 Murray Schafer の発想の原点 (4) — 『教室の犀』を中心に —
- 14回 予備
- 15回 まとめ
- 16回 テスト

＝成績評価の方法と評価の基準＝

評価は、周到な予習・復習に基づく能動的な授業への参加がなされているか否か、また、その結果としての習熟度がどうであったかで行ないます。

つまり、テスト・レポートの成績及び平常点、出席状況を勘案して評価します。

＝テキスト（必携）＝

必要に応じて、プリントを配布します。